

## 名古屋市議会 2月定例会が閉会 (3月20日)

# 正副議長の辞任で議長・副議長選挙 わしの恵子・田口一登候補が所信表明

名古屋市議会 2月定例会は19日の予算等の議決ののち、20日には意見書案などの議決を行い、その後、正副議長選挙を行いました。

### わしの議員7票、田口議員は6票

開会前の議員総会で、議長、副議長候補各2名の所信表明が行われたのち、本会議で選挙が行われました。

日本共産党は議長候補にわしの恵子議員、副議長候補に田口一登議員が立ち、議会の民主的の改革に挑む決意を述べました。結果は表のとおり。

議長選挙の結果	
○うかい春美(民)	64票
わしの恵子(共)	7票
無効	4票
副議長選挙の結果	
○三輪芳裕(公)	66票
田口一登(共)	6票
無効	3票
(投票総数 75)	

### 議長選挙にあたっての所信表明

#### わしの恵子

安倍政権のもとで、市民の暮らしは益々厳しい状況の中、議会・議員は、市民の痛みを心に寄せることが求められています。だからこそ議会・議員のあり方についても厳しく問われています。



しかし、残念ながら一部の議員によって相も変わらず不祥事が続き、議員・議会への市民の信頼は大きく失墜したままです。

私は、今回の議長立候補においては、失われた議会への信頼を回復させるために、大いに力を注ぐ決意です。

第一に、市民に開かれた分かりやすい市議会にします。市長の不適切な発言には厳しく対処します。定例会後には議会報告会を必ず開催するとともに、シンポジウムやタウンミーティングなど、議会・議員の在り方などについても幅広く市民の意見を聴く取り組みを進めます。情報公開と市民参加の促進、市民の多様な意見を把握し市政への反映など、さらなる議会制民主主義の発展に努めます。

第二に、議員としての議会活動が十分保障された、民主的で公平・公正な議会運営を一層進めていきます。議員平等の原則を踏まえ、本会議質問については会派別持ち時間制を廃止します。議会広報「市会だより」は紙面が充実してきましたが、「議会基本条例」を活かし、毎月の発行などさらなる改革を進めてまいります。

第三に、議員は市民の痛みに応えるべきであり、議員報酬半減を継続します。政務活動費の使用にあたっては、これまで以上に用途の適正化に努めます。また、議員一人当たり120万円が支給される慣例的な海外視察は廃止します。公正・清潔な名古屋市政を実現するため、政党支部を通じての企業・団体献金は自粛すべきと考えます。議員の政治倫理条例をつくり、二度と不正疑惑が起こらないよう努めます。

以上の議会改革と議員の在り方についての提案をさせていただき、私の所信表明といたします。どうかよろしく申し上げます。

### 副議長選挙にあたっての所信表明

#### 田口一登

二元代表制のもとでの本市会の果たす役割は、執行機関にたいする監視・評価という点からも、政策立案・政策提言という点からも、ますます大きくなっていると思います。



私は、議長を補佐して公正公平な議会運営に努めつつ、「日本一市民に開かれた議会」をめざし、議会基本条例のもとづく本市会の改革をさらに前進させてまいります。私が、皆様と協議しながら取り組みたいと考えている改革について、とくに2点、申し上げます。

1点目は、政務活動費の用途の透明化と適正化を図ることです。

一部議員による不正受給疑惑によって失われた市民の信頼を回復するために、政務活動費の運用改善は避けて通れない課題だと思います。他都市では、政務活動報告書の提出を義務付け、活動実績を市民に公開する、按分の根拠を明確にするとともに、実態に応じた按分が困難な場合には上限を設ける、ガソリン代については自動車運行記録簿を作成するなどの運用がなされています。他都市の状況も調査しながら、運用の改善について検討してまいります。

2点目は、市会議員の政治倫理条例を制定することです。

私たち市会議員は、市民全体の奉仕者として、人格と倫理の向上に努め、いやしくも市民の信頼を損なうことのないように努めなければならないと、本市会の政治倫理綱領はうたっています。しかし、この間、議員の不祥事が相次ぎ、政治倫理綱領の実効性が問われています。京都市では、「市職員の公正な職務の執行に関する条例」と対になる条例として、議員政治倫理条例が制定されています。市民の信頼を損なう行為を根絶するために、本市でも、議員が遵守すべき政治倫理を条例化する必要があると考えます。

以上、私の所信の一端を述べさせていただきました。みなさまのご賛同を、よろしく申し上げます。